

発表題目：里山広葉樹-ササ群落における林内雨と樹幹流の特徴

発表者：安部豊、五味高志、中村規尚

要旨（500字）

本研究は、里山広葉樹林の林相構造の違いが降雨遮断プロセスに及ぼす影響を評価するために、栃木県における林内雨と樹幹流の観測を行った。調査地の上層木はコナラやクリなどを主とし、林床はアズマネザサに被われている。そこで、高木とササの組み合わせのプロット（対照区）の他に、林床植生を刈り払った高木のみプロット（高木区）、高木を伐採したササのみプロット（ササ区）を設置し、林内雨量や樹幹流量の比較および降雨応答の違いを検討した。対照区と高木区では、林外雨量に対する林内雨量は 60% 70%である一方で、ササ区では約 30%となり、ササの葉の遮断による林内雨量の捕捉量が大きく異なっていた。いずれの観測区でも積算林外雨量が約 5mm 以上で林内雨が発生し始めているが、対照区と高木区における林内雨量はともに観測地点によるばらつきが大きく、樹冠構造による林内雨の集中滴下点の存在が示唆された。樹幹流は、林外雨量の 10% 20%程度で、樹冠中層に位置するクリで、単位樹冠面積あたりの樹幹流量が大きくなる傾向がみられた。本研究から、里山広葉樹林における樹冠構造のみならず、林床植生を含めた水文プロセスの評価が重要であると考えられた。